



アリは汗をかいたり、うんちやおしっこをしたりするの

アリは汗をかけない

人間やイヌやネコなどは、体温が決まっています（定温動物）。汗をかいたり、イヌが舌を出してハッハッとするのは、体温が上がるのを防ぐためです。アリなどの昆虫は、気温が上がれば、体温も上がってよく動き、気温が下がれば、動けなくなって冬みんなどをします（変温動物）。体温を調節するしくみなど、もっていません。

つまり、アリは、汗をかくことはありません。

生き物は、みなうんちをする

アリは生き物ですから、毎日、えさを食べ、栄養を吸収し、残ったかすをうんちとして、出しています。また、人間のおしっこには、体に入った足りない水分と一しょに、体内でできた、足りないもの、残しておくとか害になるものなどがとけこんでいます。きっと、アリにも、同じように、体内でできる足りないものを、外に出すしくみがあるはずですよ。

おしっこは、ふんに混じることもある

鳥の仲間は、体重を少しでも軽くするため、おしっこを体内にためておくしくみがありません。おしっこをしません。そのかわり、人間などがおしっこにとかして出す、体内の足りないものを、ふんといっしょに出します。鳥のふんの白い部分が、それですよ。

アリなど昆虫の仲間は、人間のじん臓と同じようなはたらきをするマルピーギ管というものをもっています。ここで、体内の足りないものをこし分け、取り出した足りないものを、消化管（腸）の中に出します。だから、アリのおしっこは、うんちといっしょに、外に出てくるのです。（監修・中山 周平）

